

報告日 令和7年6月13日

報告回次 1日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	静岡大学情報学部			代表者名	小西 達裕
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	地域連携推進室	連絡先電話番号	053-478-1533
担当者役職	准教授	担当者氏名	藤岡 伸明	連絡先E-mail	
住所	4328011 静岡県浜松市中央区城北3-5-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	浜松市	連絡先部署	広聴広報課		
担当者氏名	植平 真実	連絡先電話番号	053-457-2021	連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	アイデアソン・データソン		
概要	オープンデータの利活用をテーマとするアイデアソン・データソンにおけるファシリテーション				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） オープンデータ 防災 教育情報化／情報教育				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年6月7日	支援・助言(実地)	9時30分	17時30分	60
				活動時間（分）	420

2-2.

会場名	静岡大学浜松キャンパス		最寄駅	浜松駅
派遣場所	所在地	静岡県浜松市中央区城北3-5-1	最寄駅からの交通手段	バス

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	市川 博之
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	6/7のアイデアソンは、静岡大学浜松キャンパスにて、静岡大学の学生22名（うち情報学部生21名，他学部生1名），一般市民2名（うち一般社団法人シビックテックラボのスタッフ1名，民間企業1名）の計24名の参加者を集めて実施された。午前中は防災ビンゴ，Tableau Publicの使い方講座，ブレインストーミング，ブレインライティングを実施し，午後にはアイデアシートの作成と修正を経て参加者を6つのグループに分けた。当初は参加者に緊張した様子が見られたものの，防災ビンゴのようなゲーム要素を加えた取り組みを通じて参加者の緊張を解き，活発なディスカッションとグループワークを実現していた。グループごとの課題分析・アイデア発展の段階においては，国や自治体が持つ様々なオープンデータを適切なタイミングで紹介し，壁にぶつかった参加者が自分たちで壁を乗り越えられるよう巧みに後押しするシーンが随所に見られた。
アドバイザーへの要望事項	特になし。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者

属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	24人
属性	自治体職員	住民
人数	0	0
	2	22

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	今回実施するアイデアソン＆データソンでは，大学生を中心とする若年層の目線から，防災に役立つオープンデータ活用のあり方を探っている。しかしながら，大学生の多くは防災意識が低く，オープンデータに関する知識もあまりないため，まず防災・災害対策やオープンデータの基礎知識を身につけ，どのようなデータが防災・災害対策に役立ちうるかをしっかり考える必要がある。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	1日目のアイデアソンでは，参加者が浜松市の防災・災害対策やオープンデータの基礎を理解し，どのようなデータの利用が可能かを考えてもらうことを第一の目標とした。その上で，オープンデータを用いて防災・災害関連の地域課題を発見・分析・解決するための手がかりを探ることをめざした。

アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	防災ピンゴを用いて防災・災害対策に関する基礎知識をインプットしていただいた。また、浜松市広聴広報課ならびにデジタル・スマートシティ推進課の協力も得ながら、浜松市・静岡県ですでに実装されているオープンデータを用いたダッシュボードやデータマップ（Hamamatsu Data Garden, 浜松市防災情報GIS, Virtual Shizuoka等）についてご教示いただいた。さらに、Tableau Publicの使い方講座を通じて、防災関連のオープンデータを用いてダッシュボードやデータマップを手軽に作成する方法をインプットしていただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	そもそもオープンデータが防災・災害対策にどのように活用されているかについてほとんど知らなかった参加者が、すでに実装されているダッシュボードやデータマップを学ぶ過程でオープンデータについて理解し、それらを用いて防災・災害関連の地域課題を発見・分析したりできるという認識に至ったことが大きな収穫と言える。ひとたびこのような認識に至れば、今後は参加者自身が自ら必要なデータを検索し、その活用方法を検討することができるようになる。多くの参加者がそのような認識に到達できたことがアイデアソンの成果と言える。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
	24名の参加者が、関心を共有する6つのチームに分かれて防災・災害関連の地域課題を分析し、ワークシートにまとめた。1日目の成果物はこのワークシートである。このワークシートをもとに、2日目のデータソンに臨む。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	1日目のアイデアソンでは、防災・災害対策とオープンデータに関する基礎知識の習得と、それらを用いた地域課題の発見に主眼が置かれたため、様々なデータを活用して地域課題を詳細に分析したり、その解決策を多面的に検討するところまでは至らなかった。この続きを2日目（6/21）のデータソンで取り組む。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（E X C E LやP D Fでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	2日目のデータソン終了時にアンケートを実施する予定。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他
	同様のアイデアソン＆データソンを毎年度実施する予定である。本イベントの参加者がアーバンデータチャレンジやCOGといったコンテストに出場し、コンスタントに優秀な成績を収められるようになることをめざす。	
4－4. 事業の最終的な目指す姿	本イベントの短期的目標は、①参加者の防災意識とオープンデータ活用能力を向上させることである。さらに、イベント中に考案した課題解決策やオープンデータ活用方法をそのまま眠らせるのではなく、②学外のコンテストに出場してさらに発展させたり、③地域社会に発信したりすることも重要な目標である。本事業の最終目標（長期的目標）は、(a)オープンデータを活用して防災に関わる地域課題の発見・分析・解決に寄与できる市民を育成し、地域社会全体の防災意識とオープンデータ活用能力を底上げすること、ならびに(b)本事業で考案された課題解決策を地域社会に実装することにより、地域防災力を強化することである。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

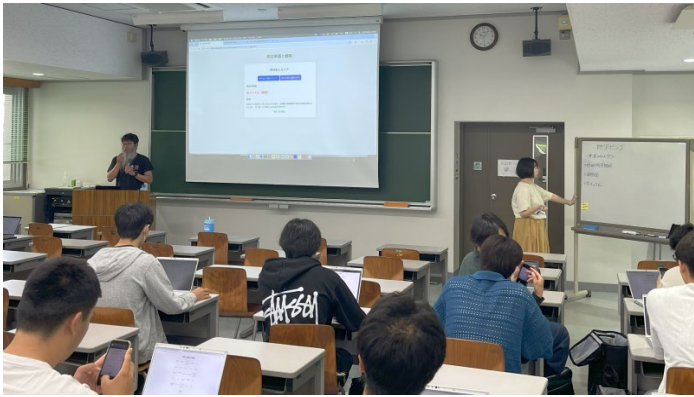
掲載許可	☐ 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。



防災ピンゴ中の市川氏



オープンデータを用いて防災・災害に関するグラフを作成する方法を説明する市川氏



ブレインライティングのやり方を説明する市川氏